

と治兵衛は安心いたしましたして、どうやら此の金子を拾つたのは番頭らしいと思ひましたので、それとなく番頭傳兵衛を引伴れまして西御番所へ罷り出ました。詰所たまりに待つて居りますとお呼込みになります。

「安堂寺町一丁目、菊屋治兵衛、町役附添ふて出ましよう、新町口入屋金兵衛」

とそれ／＼お呼込みになりました、お白洲の縁側間近く御奉行様お進みに相成り、同心衆黒のお羽織を召て、ゾーツと控へて御座る。

「安堂寺町一丁目、菊屋治兵衛、町役一同附添ひ出て居るの」

「恐れ乍控へ居ります」

「菊屋治兵衛面おもてを上げ、昨夜申付けおいた金子如何相成つた」

「へ、エ、昨夜宅へ歸りまして、段々取調べましたる



ところ、店の火鉢の中に落ちて居ましたので、金子二十五兩これへ持参いたしましたして御座ります」

「ウム左様か、参持いたせし金子二十五兩、これへ差出せ……新町肝煎金兵衛面おもてを上げ」

「へ、エ……」

「コリヤ、入牢申付けおきし兩人、此處へ……」

と申しますと早速百姓久兵衛、船頭幸兵衛の兩人を白洲へ伴れて参りました。

「下に居ろ——」

「途方もないボン／＼と吐しやがる」

「天王寺村百姓久兵衛……」

「へ、エ……」

「櫓濱船頭幸兵衛……」

「へ、エ……」

「菊屋の番頭傳兵衛とは其の方か」

「へ、エ」

御奉行様下役に目で知らせますと、

「傳兵衛御用だ、神妙にしろ……」